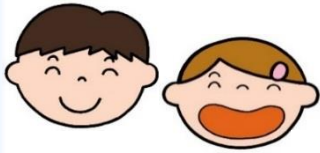


～子どもの学びと育ちを支え、質の高い幼児教育・保育を目指して～



つむぐ

No. 6

令和3年2月3日発行 袋井市幼児教育センター

「自分でできる」を支えます

袋井の幼児教育で
育成する力



生活習慣につながる「自立心」を養う

自分で靴を履こうとがんばる1歳児。励ましながら見守ります。

生活習慣	自分のことは自分でできる	(1)自立心
		(2)道徳性 規範意識の芽生え
		(3)健康な心と体
		(4)社会生活との関わり
学びに向かう力	みんなと頑張れる	(5)自然との関わり・生命尊重
		(6)言葉による伝え合い
		(7)協同性
基礎となる力の	考える・やってみる	(8)思考力の芽生え
		(9)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
		(10)豊かな感性と表現



ファスナーに苦戦する3歳児。見守り、できたことを認めます。

「できたね」と認めて、満足感につなげる

幼稚園や保育所（園）では、基本的な生活習慣が身に付くよう、食事、衣服の着脱、清潔、排泄、睡眠などをおさえた支援を繰り返し行っています。

満1歳を過ぎると運動機能や指先の機能が発達し、食事や衣服の着脱、靴を履くなども、自分でやってみようとする気持ちが生まれます。

自分でやろうとしている姿を目にしたときは、手を貸さずに、まずは温かく見守り、励まします。やり遂げたときには、「できたね」と認める言葉掛けをして、心地よさや満足感を味わえるようにします。



5歳児になると、活動後や食事前に、自ら手洗いやうがいを行うようになります。

自分で見通しをもって行動できるように支える

年長の後半になると、「食事前に手を洗う」「食後の歯磨きを行う」「活動前にトイレを済ませる」など、子どもが自ら必要性を感じて行動するようになります。

この段階では、周囲の大人が模範を示しながら、子どもの自主的な姿を認めていきます。そうすることで、子どもが自信をもって行動できるようになり、自立心が育ちます。